

# 訪問看護 充実

## 登別すすらん病院ステーション開設



訪問看護ステーションに勤務するスタッフ

【登別】医療法人登別すすらん病院（登別市青葉町、志田勇人理事長）は11月から、訪問看護ステーションすすらん（管理者・白石さくら訪問看護師）を開設した。これまでのみなし訪問看護事業所を独立させることで、精神科をはじめ、より多くの疾患を対象とした「地域に広く必要とされる訪問看護」を提供していく。（奥野浩章）

同法人が運営する登別すすらん病院（内科・消化器内科・リハビリテーション科）は、2020年3月に介護保険による訪問看護（みなし事業所）の提供を開始。室蘭、白老に住む、主に同病院の患者を対象に訪問看護を行ってきた。訪問看護ステーションとして独立させることで、同病院の患者以外にも医療処置の対象となり、幅広く対応できるようになった。白石さんは「健康で長く在宅で過ごすために必要なことはいろ

## 医療処置対応幅広く

ろあるので、その手伝いをさせてもらいたい。気軽に相談してもらえようなステーションにしていきたい」と抱負を語る。訪問看護では、利用者の日常生活の看護や機能訓練、在宅療養に伴う相談を受け付ける。具体的には健康状態の観察、薬の管理や服薬への助言、療養生活・介護に関する世話や助言、認知症の看護、リハビリ、医師の指示に基づく医療処置など多岐にわたる。現在、月約300件の訪問看護を実施。みなし事業所開設時から勤務する看護師の坂本由佳さんは「地域の皆さんやケアマネジャーに信頼していただき、少しずつ利用者が増えてきた。訪問リハビリステーションと居宅介護支援事業所の3事業所が協力し合うことで、より多くの疾患を対象にできる」とステーション開設の意義を強調する。当面は精神科の経験もある看護師3人体制で対応する。若林智恵子さんは「利用者の皆さんが少しずつ心を開いてくれたり、飲めなかった薬が飲めるようになったときは、やっていて良かったなと感じることがある」とやりのがいを話す。同病院リハビリテーション科長で作業療法士の高橋智昭さんは、訪問看護ステーションと連携し、認知症患者の在宅療養が継続できるよう支援する。「心身機能を分析することがリハビリの強み。看護師が持っている強みを合わせながら関わってきたい」と多職種連携に意欲を見せる。訪問看護ステーションに関する問い合わせは同院、電話0143・85局1000番へ。



シーズン券の付スキースキー場(昨シ

と。問い合わせは同スキー場、電話0143・84局2072番へ。（棟方優亮）

真っ登。パーナイフ作りに挑戦した。児童は鋸を1千度以上の炉で熱し、真っ赤に変色した鉄を素早く取り出してハンマーで成形する作業を繰り返す。木村和琥君は「二連の授業で鉄ができる仕組みを学ぶことができてよかった。面白かったよ」と充実した表情を浮かべた。（棟方優亮）